



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム カミュ	階数	3
建設地	東区北39条東1丁目756-62の内、北40条東1丁目756-3の内	構造	S造
用途地域	33m高度地区、景観計画地域、法22条区域、下水道処理区域	平均居住人員	100人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2020年7月 0.0	評価の段階	竣工段階評価
敷地面積	2,881 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2020年5月29日
建築面積	1,706 m <sup>2</sup>	作成者	宮崎 聡
延床面積	4,493 m <sup>2</sup>	確認日	2020年7月3日
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	82%
③ 上記+②以外のオンサイト手法	82%
④ 上記+オフサイト手法	82%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= **0.76**

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.1

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

### 3 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b></p> <p>周辺環境との調和、建物用途を考慮し、落ち着いた色合いの外壁としています。また、建物西側(全面道路)及び南側(隣地境界)に植栽を計画し四季の移り変わりを楽しめる植栽の選定をしました。南側部分(隣地境界側)に関しては、隣地境界から出来る限り当該建物と距離をとり、周辺環境への影響を極力抑えた計画としました。</p>	<p><b>A 省エネルギー</b></p> <p>建物の高断熱化・サッシュの二重化等により冷暖房に係る省エネルギー化を図り、また照明器具のLED化により、消費電力の低減を行いました。</p>	<p><b>B 省資源等</b></p> <p>屋内にゴミ庫を設置し「廃棄物保管庫」「再利用物保管庫」として利用し、リデュース・リユース・リサイクルの「3R」に努めています。</p>
<p><b>C 緑化</b></p> <p>敷地内には、温熱環境の向上のために、「札幌市緑の保全と創出の条例」で定められた基準よりも出来るだけ多くの緑化に努めています。</p>	<p><b>D 雪処理</b></p> <p>敷地内車路・通路をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。</p>	

### 4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	あり	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0						
(仮称)特別養老ホーム カミュ		欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)						
スコアシート		竣工段階						
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				3.4	0.15	3.7	1.00	3.6
1.1 室内騒音レベル			LGS-65 t12.5PB 両面二重貼(デッキ裏まで) D-50以上の遮音性能を有している。	4.0	0.40	4.0	0.40	
1.2 遮音				3.0	0.40	3.9	0.40	
1 開口部遮音性能			アルミサッシュ+樹脂サッシュの二重サッシ T-2以上相当の建具を使用している。	3.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			LGS-65 t12.5PB 両面二重貼(デッキ裏まで) D-50以上の遮音性能を有している。	3.0	0.60	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.4	0.25	3.8	1.00	3.7
3.1 昼光利用				4.6	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率			開口部をおおきくして昼光率を確保している。	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口					-	5.0	-	
3 昼光利用設備		省エネ	光庭により、共有スペースに日光を取り込む工夫をした。	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			複数の照明回路設定。	3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境				3.4	0.25	3.1	1.00	3.2
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			開口部を大きくして、開閉可能な窓を十分確保している。	3.0	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				5.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視					-		-	
2 喫煙の制御			敷地内前面禁煙を実施。	5.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.3
<b>1 機能性</b>			<b>4.0</b>	0.40	<b>4.6</b>	1.00	<b>4.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性	居室1室あたり13㎡以上確保。		-	<b>5.0</b>	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>5.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	<b>3.0</b>	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	建築全体のコンセプト設定を行い統一したデザインとなるよう計画している。	5.0	1.00	<b>5.0</b>	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>4.5</b>	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	内装材、外装材に防汚性の高い仕上を採用した。	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃用資材を保管するスペースがあり、洗い場も設置している。	4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.8</b>	0.30		-	<b>2.8</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.6</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.8</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.6</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>1.8</b>	0.30	<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	<b>緑化</b>	樹木の選定において多種類採用した。	<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	<b>緑化</b>		<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30		-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	<b>雪処理</b>		<b>2.0</b>	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-		-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	<b>省エネ</b>	高断熱仕様。	<b>5.0</b>	0.20		-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	<b>省エネ</b>	各階光庭にて太陽光を共用部に取り入れた。	<b>4.0</b>	0.10		-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	<b>省エネ</b>	[BEI][BEIm] = 0.76 -	<b>3.5</b>	0.50		-	<b>3.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>			-		-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型器具を使用している。	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.2</b>	0.60		-	<b>3.2</b>
2.1 材料使用量の削減	<b>省資源</b>	F355以上 440未満	4.0	0.13		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	<b>省資源</b>		-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>		3.0	0.25		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	再生加熱アスファルト混合物	3.0	0.25		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	<b>省資源</b>		2.0	0.13		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	<b>省資源</b>	乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。	4.0	0.25		-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない接着剤を選定している。	5.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	省資源	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	省資源 LCCO2排出率91%である。	3.7	0.33	-	-	3.7
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止	省資源	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱処理	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理 室内ゴミ庫による十分なスペースの確保。	4.0	0.33	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	(仮称)特別養護老人ホーム カミュ				
建物用途	病院.				
延床面積	4,492.9 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 <b>省エネルギー</b>	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★☆	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.1 最低点 6.6 )				<b>合計</b>	<b>17.0点</b> /23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.6 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.4 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.6 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	7.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.5 最低点 7.4 )				<b>合計</b>	<b>15.4点</b> /23.5点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.5 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.9 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.7 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6 /4.2
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )				<b>合計</b>	<b>10.1点</b> /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	3.6 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )				<b>合計</b>	<b>1.0点</b> /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数